

や意見の交換をしたいと考えている。研究者だけでなく、教育現場や教育相談に携わっている方々からも日頃感じている問題点について積極的に発言していただきたい。活発な議論を通して、この会合がより快適な学校環境を創造する方策を考えるための契機となれば幸いである。

## DH04 現代社会における子どもの遊びを考える

10月9日(土) 13:15—15:45 401

企画・司会者	お茶の水女子大学	無藤隆
話題提供者	関西大学	田中俊也
	千葉大学	中澤潤
	三重大学医療技術短期大学部	河合優年
	四日市市立納屋小学校	有門秀紀

現代日本の多くの地域での実情を考えると、子どもの生活は、勉強と各種のメディア接触が中心になっているように思われる。少なくとも小学生を中心に考える限りでは、そうだろう。そこでの主な研究および実践課題として次のようなものがありそうだ。

1) 事実として生活と遊びの実態はどうか。実は、アンケートによる生活時間調査程度以上のデータはきわめて乏しいのが現状である。たとえば、地域での遊び、校庭での休み時間での遊びにおいて、何を誰とどのようにしているのか。さらにそれらが性、学年、受験するかどうか、地域等でどう違うのか。自転車などによる「回遊行動」では何をしているのか。

2) 小学生を考えると、テレビ、漫画、テレビゲームがおそらくメディア接触の大半を占めるだろう。その使用状況、また子どもの受けとめ方はどうか。

3) ゲームセンター（おもちゃ屋のそれを含めて）などの行動はどうか。

4) 生活の隙間での遊び的行動はどうとらえるのか。たとえば、塾通いのとき、勉強の合間、面白いテレビがないときなど。

5) 生活での他の行動、勉強、手伝い、食事、睡眠等との関連はどうか。時間を越えての内容やスタイルの対応があるのか。親や友達の影響はあるか。

6) 遊びまたその他の活動での会話では何をいかに話しているのか。

7) これらの活動を支える知的・社会的要因は何か。またどのように概念化されているのか。逆に、活動からの発達の影響はどのような枠組みでとらえるのか。そして、事実あるのか。

8) 「非現代的」体験活動、自然への接触や勤労体験、奉仕活動などは、子どもの生活の中

でどう実践することが可能か。それらの発達の意味は何か。

9) 以上の視点から、特に小中学生の発達の問題を、家庭や学校を越えて、地域とメディアとの関連において位置づけるべきときに来ているのではないか。

## DH05 登校拒否から学校への発信

10月10(日) 9:30—12:00 401

企画・司会者	明治学院大学	神保信一
企画者	名古屋大学	池田豊應
話題提供者	東京都立教育研究所	若井田正文
	宇都宮市立教育研究所	下司昌一
	日本女子大学	鵜養美昭

登校拒否に対するこれまでの大部分の研究は、その指導の工夫、カウンセリング、教育相談、事例研究などの形をとって発表されてきている。これらの研究は大切であり、登校拒否の指導に貢献するところは大きいことはいうまでもない。

しかし、登校拒否がふえつづけているという現実をみると、登校拒否がおこってからの対応を考えるのみでなく、登校拒否を少なくする努力、工夫などの実践的研究が求められる。

私達は教育心理学の立場から、登校拒否の解消、予防的アプローチを研究的に実践する事により、教育現場に対して解消、予防のための提言をすることが責任であると考えている。

もちろん、心理臨床的、精神医学的なアプローチや共同研究も必要とされる。

現象としては、登校拒否という形をとっているが、これは学校教育の立場から児童生徒の教育をどのように考えなおすかを問われていることでもある。参会者のかたがたから、さまざまな方向の示唆をいただき、相互の理解が深まればありがたいと考えている。